

議長定例記者会見の概要 (4月臨時会)

日 時：令和4年4月18日(月)
11時34分～12時1分
場 所：議長応接室



【4月臨時会を終えての議長所感】

(中野議長)

お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

先ほどの本会議で、新副議長に右松隆央議員が選出されました。

また、各常任委員会などの委員が選任されたほか、特別委員会が設置され、これから1年間の議会を新しい布陣で進めてまいりたいと思っています。

目下、コロナ禍がなかなか収まらない中で、我々の議会活動も100%フル回転できない状況ですが、与えられた使命を全うしていきたいと考えています。特に今年は任期最後の年でもあり、県民の負託に応えられる議会として頑張っていきたいと思いますので、記者の皆様方にも御指導、御協力をよろしくお願いいたします。

【新副議長の就任あいさつ】

(右松副議長)

このたび、100代目の副議長に就任させていただくこととなりました。

記者の皆様方には、1年間、いろいろと議論も重ねながら、県政発展につなげていければと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

議場でも少しお話ししましたとおり、コロナ禍がこんなに長く続くとは思いませんでしたので、長期化する問題にどのように対応していくかが課題です。

それから、「ロシア軍のウクライナ侵略に強く抗議し、恒久平和を求める決議」を先日の議会で可決しましたが、ロシアによるウクライナ侵略により世界情勢が混沌としており、その影響が本県にもいろいろな形で押し寄せています。

このような中で、県議会の役割も、非常に大きくなるものと認識しています。

中野議長をしっかりと精一杯お支えし、県政発展のために1年間努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【質疑応答】

(宮崎日日新聞)

コロナ禍が長期化する中、議会としての課題について今年度の柱を教えてください。

(中野議長)

今年度になって急激にコロナの感染者数が増え、本県では人口10万人当たりの感染者数が全国でも高い位置にあります。

政府における対策の方向性もそうだと思いますが、コロナとともに、並行して対応していかなければなりません。本県、特に議会も、「コロナ禍であるからできない」ではなく、並行して活動しなければならないと思っています。

昨年度は臨時会も4回開催されました。当初予算にも、国の交付金を活用したコロナ関連の予算がかなり組まれています。追加予算など、政府がどのような対策を打ってくるのか注視し、具体的にその予算を執行していかなければならないときがきます。その際、県民目線で意見できるよう、日頃から議員として様々な調査などの議会活動や政治活動を行い、県政運営がスムーズに行えるようにしたいと考えています。

(右松副議長)

様々な物価高も含め、世界情勢については、国が関わっていかなければならない課題もあります。本県においては、コロナの第6波があまり収まらない中で第7波に突入してしまいました。このような中で、やはり大事になってくるのは、経済浮揚かなと思っています。

感染対策とともに、経済についてしっかり手を打っていく。生活が厳しい県民の方がたくさんいらっしゃるの、そういったところにもしっかり目を向けていかなければならないと思っています。

あともう一点、議会の役割というのは、知事や執行部から出てくる様々な議案や事業について、しっかり政策論争していくことだと思っています。議会や委員会において丁々発止の質疑応答を行い、よりよい政策の提言もしながら、県政発展につなげていきたいと思っています。

(宮崎日日新聞)

今年度、「ゼロカーボン社会づくり推進」「デジタル化推進」「こどもの未来応援」という、3つの特別委員会が設置されました。これらのテーマは議会の方針として設置され、これから議論をしていくのだと思いますが、どのような形で議論を進めていきたいと考えていますか。

(中野議長)

特別委員会は、これから1年間、我々議員が3つに分かれて調査研究を行い、最終的にその結果を議会に報告します。その報告した結果が、提言として次年度からの県政に生かされることが、一番の目的だと思っています。

設置された3つの特別委員会のテーマ全てが、今後、対応していかなければならない必要不可欠な案件だと思っていますので、すばらしい成果が出ることを期待しています。

(右松副議長)

「ゼロカーボン社会づくり推進」「デジタル化推進」「こどもの未来応援」は、非常に重要な委員会だと思っています。

御承知のとおり、特別委員会は1年間という設置の時限が定められた委員会です。私も過去に委員長を務めましたが、1年で成果を出すのはなかなか難しいところもあります。

そのような中でも委員長が采配し、この重要な3つのテーマについて、是非、何か1つ2つ3つでも前に進めて、国・市町村との連携も含めた成果を出していただければと思っています。

(宮崎日日新聞)

右松副議長が触れられましたが、世界情勢について、県内でも農業を含めて様々な影響が出始めています。漁業者の方にもお話を伺いましたが、燃油が高騰して厳しい状況にあるようです。

このような本県への影響をどのように捉え、議会として執行部に対し、どのように指摘していくべきと考えていますか。

(中野議長)

最近、物価が非常に高くなっており、その原因は、ロシアによるウクライナ侵略や円安の進行などと言われています。また、家畜の飼料なども、北米において不作だったという情報もありますので、そのような事象が相まって、物価の高騰につながっているの

だと思えます。

そして、農水産業を含め、様々な産業において、非常にコスト高の状況になり、それぞれの経営が厳しくなっています。もちろん生活の面も、物価が上がった分、非常に苦しくなるわけで、議会もいろいろな調査を行い、県や国に提言をしていきたいと考えています。

次の6月定例会では、その辺りの意見書等も出てくるだろうと思っています。

世界的な状況であり、どうすることもできない部分もあるかとは思いますが、コロナ対策においても、政府は1年間の予算を費やすほどの規模の予算で対応しています。ここは、政府が思い切った補正等を組んでいただき、それを我々地方にも反映していただきたいと思っています。

(右松副議長)

今、議長がおっしゃったとおりですが、世界情勢については、なかなか先が見えない状況です。今後、ヨーロッパ全体を巻き込んでいくのかどうかもわからない状況の中で、非常に混沌とした状況になっています。

先ほど記者の方が言われたとおり、その影響が、原油や食料品などの値上げにつながり、本当にあらゆるところへ打撃を与えています。

そういった中で、食料安全保障とエネルギーの安全保障という観点では、地方でできるところはしっかり進めていかなければならないと思っています。ゼロカーボンについても、省エネ・省資源や再生可能エネルギーの推進も含め、国策だけではなく本県でエネルギーの需給をどのようにしていくのかなど、食料とエネルギーの安全保障に関し、非常に重要になってくると思っています。

これらの安全保障に関しては、地方でできることは限られるかもしれませんが、その中で知恵を絞り、取り組んでいかなければならないと思っています。

(UMK)

4月以降、宮崎県が第7波に突入したと言っているコロナへの対策について、現状の執行部の対応をどう見ているか、所感をお聞かせください。

(中野議長)

先ほども言いましたが、既に第7波に突入したと言ってもいいと思います。今般のオミクロン株、あるいはオミクロン株が変異した型は、非常に感染力が強いです。

なぜ、本県が人口10万人当たりの感染者数で全国2位や3位になるのか。私もこの前、担当部長に聞きましたが、担当部長もあまりよくわからないということでした。何か特別に、本県が対策を怠っているわけでもないでしょう。残念な感染状況ですが、何か妙案はないのかと思っておりますので、あの手この手で執行部も対策を行っていただきたいです。

特に今の感染状況を見ていると、10代未満や10代・20代の感染が大半で、そしてその家族が巻き込まれたり、保育園・幼稚園からクラスターが出たりしていますよね。これ

はもう必然的にその先生たちも感染するし、その家族も感染するので、なかなかこれを全部防ぐことは難しいだろうと思いますが、根気強く、とにかく徹底してやってほしいと思っています。

一方で、これを担当する職員の人たちは、連日連夜、一生懸命奮闘しています。疫学調査について、それぞれの事業所等において濃厚接触者を調査する方法を宮崎市長がおっしゃっていました。あれはいいことだと思い県にも聞きましたが、県でも既にその方法をやっているということでした。オミクロン株は感染力が強く、身近に感染者が増えていきますので、みんながチェックできるような状況になり、予防につながればいいと思っています。

本県のワクチン接種率については、60歳以上では高いですが、それ以下の年代では意外と低いので、もっと積極的にワクチンを接種してほしいと思います。当初は高齢者の死亡者が毎日2～3人出ていましたが、現在はぽつぽつと1人いるぐらいになり、少なくなりました。これもやはり、ワクチンの効果だと思っています。

無症状の方も多く、気づかぬ間に感染を広げてしまうこともあるので、その予防をするということは効果も大きいでしょう。今は若年者も希望すればワクチンを打てるので、医学的な根拠に基づき、もっと積極的に接種が拡大すればいいと思っています。それ以外に方法はないと思います。

(右松副議長)

福祉保健部のコロナ対応について、私は非常に頭の下がる思いです。一生懸命やってらっしゃるということは強く感じており、感謝と敬意しかありません。

一方、昨日の本県の新規感染者数は548人です。全国に目を向けると、去年の代表質問で取り上げましたが、鳥取県は二桁で97人です。それから徳島県も72人です。これだけの差がついてるということは、どこかに要因があると思います。宮崎は宮崎で一生懸命やっていることは十分理解をしていますが、二桁に減らしているような他県の取組状況について、真摯に研究すべきだと思っています。

去年の代表質問で鳥取県の平井知事の話を取り上げましたが、濃厚接触者をしっかりと追いかけており、少しずつ消していく。その努力というのは、絶対に影響があると思っています。受け身ではなく、こちらからいかにして減らしていくかという、能動的な動きが絶対に必要かと思っています。

確かにこれは非常に難しいですが、どうすれば感染を減らせるのか、議会や委員会でもしっかり取り上げていただいて、私たちも、感染者が少ないところについては、しっかり研究すべきだと強く痛感しているところです。

(夕刊デイリー新聞)

4月15日に宮崎カーフェリーの新船が就航し、これからの貨物と観光に期待を寄せているかと思いますが、ここに至るまでに県から40億円、宮崎市から5億円の貸付けが出ています。

今後、この宮崎カーフェリーとどう関わっていくのでしょうか。また、事業報告など

を検証されていくと思いますが、どのあたりを注視していきますか。

(中野議長)

現在、1隻が就航し、このあと2隻目の就航を控えています。

このことについては、県からも40億円というお金を投資してのスタートですので、失敗するようなことがあってはいけないと思っています。徹底して県もいろいろな事業を組み、人も貨物も満載できるような運営をしてほしいです。前副知事が社長で、人材も県から送り込んでいますので、連携して進めてほしいと思っています。

ただ、コロナ禍の影響により、観光の問題や物流の問題など、いろいろとあるだろうと思います。また、新しい船が就航すれば、当初は目新しいのでみんなが利用することがあるだろうと思いますが、志布志港からも大型船が出ていますし、大分県からも関西方面へ毎日運行していますので、そういうところとも、競争が激化するだろうと思っています。

また、都城志布志道路は完成が近く、これが完成すれば、無料の高規格道路が都城から志布志までつながります。道路網整備の在り方も含めて対策を打っていかないと、貨物が宮崎港に寄らないという、大変なことになってしまいます。

今のところは、運送会社も荷主の方々も非常に協力的で、この新しいカーフェリーを盛り立てるという体制にあります。長い目で見たときに、経営上で背に腹は代えられない状況になれば、コストのかからない港から貨物を出そうとなると思います。

したがって、そういうことに負けないような政策を今のうちから打ち出してフォローし、県民の税金が無駄にならないようにと思っています。

(右松副議長)

まさに議長がおっしゃったとおりです。

皆様御承知のとおりですが、議会でも侃々諤々の議論を重ね、もう本当に歯を食いしばる思いで、県から40億円を出資いたしました。このことについては、やはり我々にも責任があると思っています。本当にこの時代は、先を見通すことが非常に難しいですが、この40億円に関しては、県民の皆様が納得していただく結果を、コロナ禍が長引く中でも出していかなければいけないと思っています。

そのためには、トラックの積載台数も3割増えているので、様々な業界とも連携し、今までは積載できずに断っていたところにも、しっかりフェリーを使っていただくようにする努力も必要だと思っています。また、他県との連携も進め、しっかり貨物を積んで帰ってくることも大事だと思っています。

それから、旅客定員に関しては2割減ですが、船内を拝見したところ、非常にきれいで居心地のいい客室になっていました。トラックの運転手と一般客の区画もしっかり分けられており、旅客の方も楽しめる、わくわくするようなフェリーだと思っています。このこともしっかりと広報していただき、我々も率先して軌道に乗せて、5年後、10年後に新船を造船してよかったと思ってもらうようにしないとイケません。

ここは、議会もしっかりと取り組んでいかなければいけないと思っています。